



# 社会情勢の変化への対応及び 新たな仕組みの構築について

平成25年度 第3回  
三重県経営戦略会議  
平成25年9月3日

# 目次

(頁)

1. はじめに .....	1
2. 社会情勢の変化への対応と新たな仕組みの構築 .....	2
(1) グローバル人材の育成 .....	2
(2) 産業人材の育成 .....	4
(3) 畜産業の新たな展開 .....	6
(4) 水産業の新たな展開 .....	8

# 1. はじめに

平成24年度にスタートした「みえ県民カビジョン・行動計画」では、4年間の計画期間中（平成24～27年度）に注力して取り組むべき「選択・集中プログラム」や施策等を定めています。

しかし、平成26年度には計画策定から3年目を迎え、当初想定していなかった社会情勢の変化への対応や、新たな仕組みの構築が必要な分野が出てきているのではないかと考えています。

## 【論点】

本資料では、社会情勢の変化が生じたり、新たな仕組みの構築が必要と思われる各分野の現状や課題をはじめ、客観的なデータ等をお示しし、今後、三重県として必要と思われる対応などについて幅広くご意見をいただきます。

## 項目1

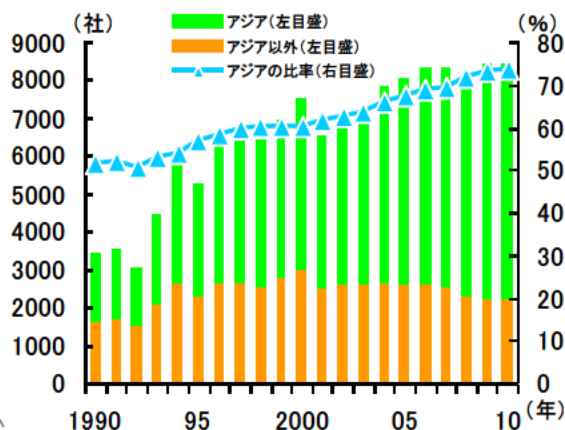
## グローバル人材の育成

### 現状

グローバル化の急速な進展

グローバルな視野に立って、自らの考えや意見を適切に伝えるとともに、日本人・三重県民としてのアイデンティティを持ち、異なる文化・伝統に立脚する人々と共に生きる力を身に付けることが必要になっている

(参考) 海外現地法人の推移



これまでも、郷土教育や、中学校及び高等学校における英語教育の充実など、豊かな心や学力の育成等に関わる事業を個別に進めてきたが...

### 課題

小学校における英語教育の充実

英語によるコミュニケーション力の強化

子どもたちによる発信力の強化

校種間連携(異年齢交流)の一層の推進

そして、

教員の英語力及び指導力の向上

etc.

### 取組の方向性

グローバル社会で求められる力

- ①自ら考え判断し、主体的に行動する力 (主体性)
- ②共に成長しながら、新しい社会を創造する力 (共育力)
- ③英語で積極的にコミュニケーションを図る力 (語学力)

これらの育成を図ることにより、グローバルな舞台で活躍できる人材の育成に取り組む

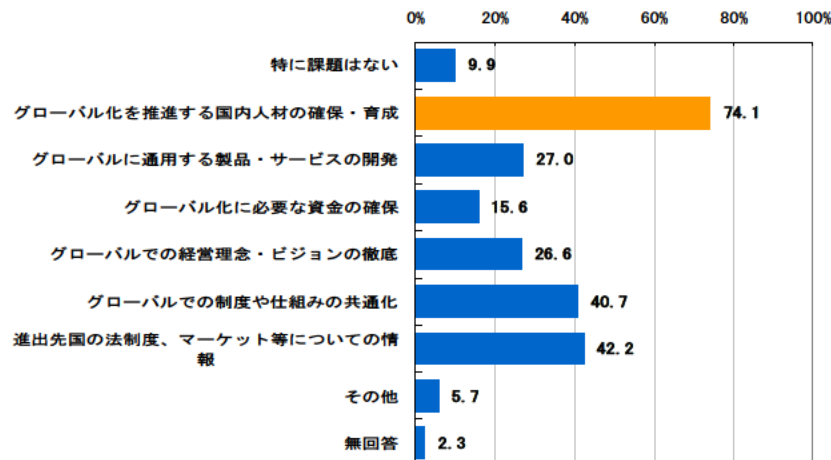
## TOEFLスコアの諸外国比較

世界順位	国名	TOEFLスコア
1位	オランダ	100
2位	デンマーク	99
3位	シンガポール	99
82位	韓国	81
107位	中国	77
135位	トーゴ	70
136位	日本	70
138位	クウェート	70
163位	モーリタニア	58

(出典)経済産業省「通商白書 2012年版」

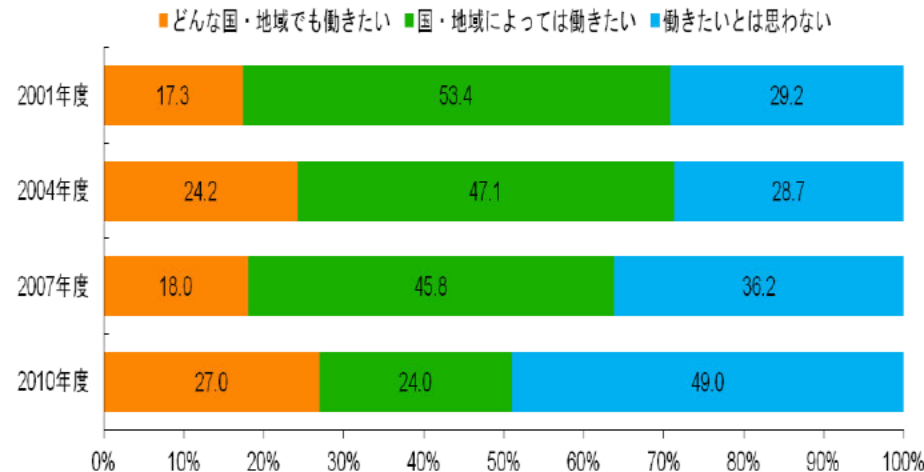
## 企業のグローバル人材へのニーズとその過不足

海外拠点の設置・運営に際して、貴社が直面されている課題や問題はありますか。また、それはどのようなものでしょうか。(N:263)



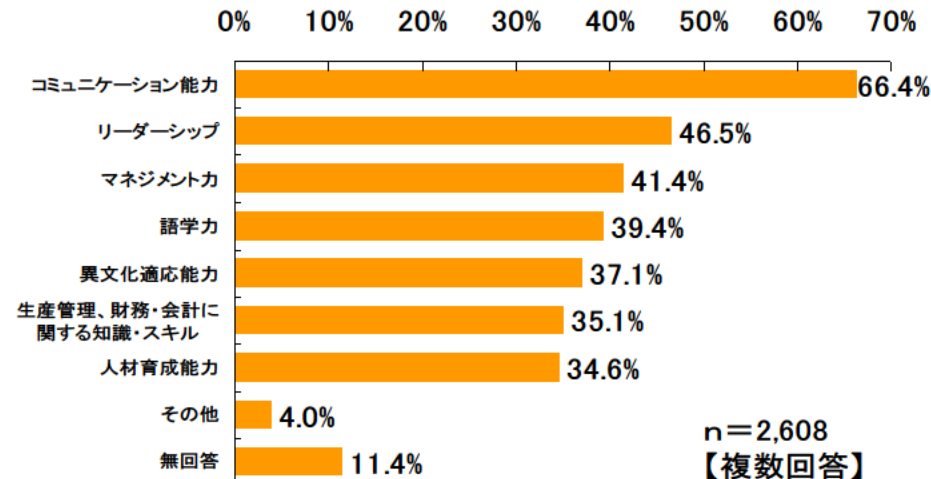
(出典)経済産業省「グローバル人材育成に関するアンケート調査」(2010年3月(実施))

## 新入社員の海外勤務希望



(出典)学校法人産業能率大学「第4回新入社員のグローバル意識調査」

## 企業が海外に派遣する中核的技能者に求める能力



(出典)独立行政法人労働政策研究・研修機構「ものづくり現場の中核を担う技能者の育成の現状と課題に関する調査」

# 項目2 産業人材の育成

## 現状

**①人口減少社会の到来**

生産年齢人口(15~64歳)は、2010年~2040年の30年間で以下のように減少すると推計されている。  
 【全国】8,173万6千人→5,786万6千人(△2,387万人)  
 【三重県】115万1千人→80万7千人(△34万4千人)  
 [国立社会保障・人口問題研究所(H25年3月推計、出生・死亡中位)]

➡ **研究開発人材の減少**  
 (cf. 第2回三重県経営戦略会議 : 西田委員からの問題提起)

**②経済のグローバル化の進展**

・中国を始めとする新興国の台頭  
 →主要20カ国・地域での首脳会議(G20)の影響力拡大

これら2つの  
**パラダイム転換**

を強く意識しながら、  
 雇用政策、産業政策を進めていく必要がある

## 課題

今後の政策で必要とされるのは...

「知恵」と「知識」をフルに活用した、  
 グローバルな視点に立った取組

雇用・経済の主役である企業が、  
 いかに知恵と知識を呼び込み、  
 グローバル化の波を生き抜くか

➡ ということは、  
 県内中小企業にとっても  
 意識すべき課題である

したがって、

企業の知恵と知識の源泉  
 || マatching  
 産業人材の育成、供給

ひとつづくりに、  
 行政もしっかり  
 コミットしていかなければならない

## 取組の方向性

産業界が求める人材は多様

- 技術力 (ものづくり力)
- 主体性
- 協調性
- グローバル性

などの視点

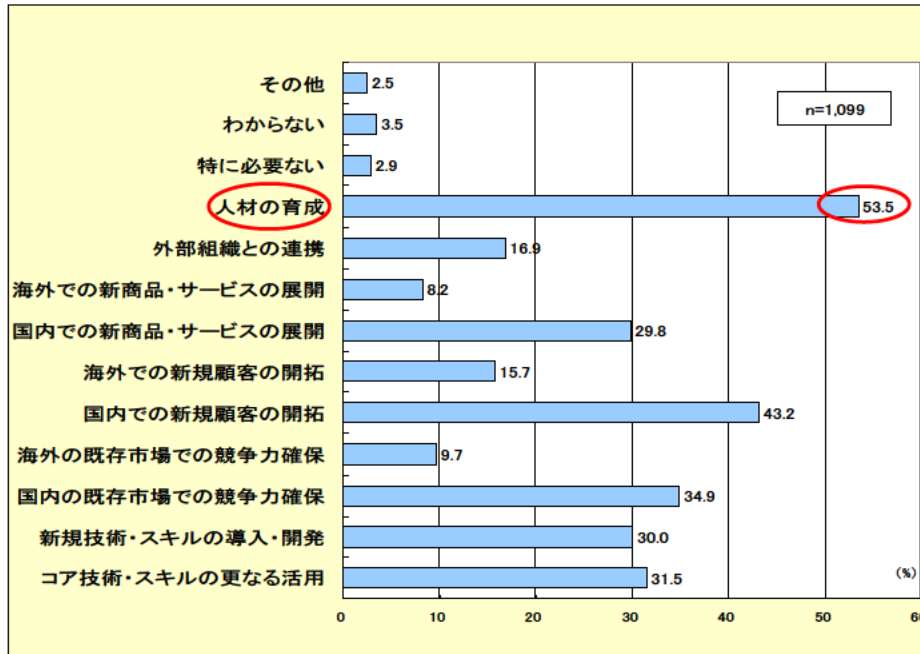
+

小学生から企業人まで、  
 発達段階等に応じた手法  
 により、人材を育成していく

具体的には

- グローバル教育としっかり連携
- ものづくり中小企業のイノベーション能力を高める研究開発の中核人材の育成
- 「MIE経営者育成道場」等で、グローバルビジネスを志す次世代経営者に、スキル・知識等を習得してもらう etc.

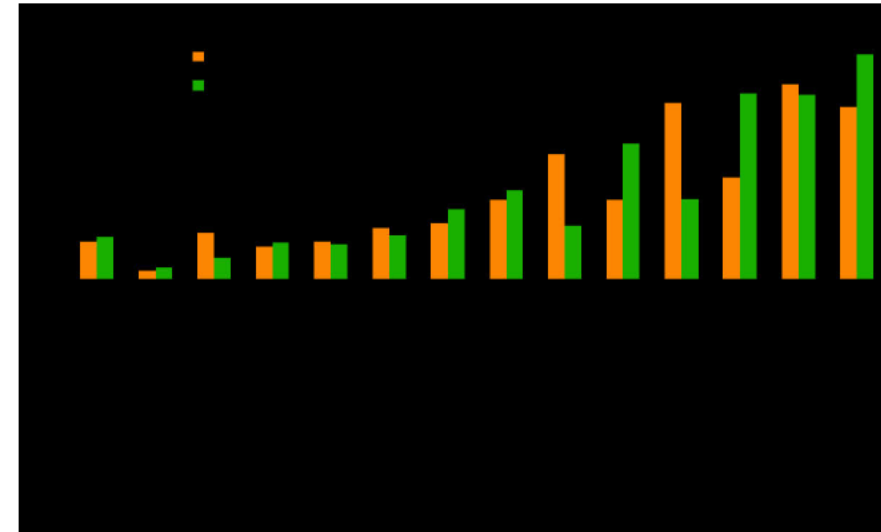
## 企業が今後必要とする経営戦略



(出典)三重県「みえ産業振興戦略[2012年7月]」(5,000社アンケート結果から)

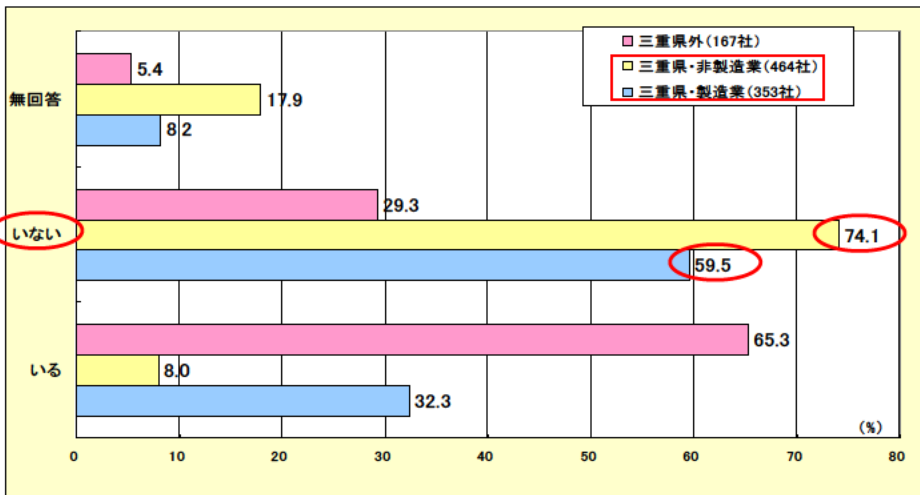
## 項目2 参考

### 中小企業が新事業展開に際して直面した課題（複数回答）



(出典)中小企業庁「中小企業白書 2013年版」

### 研究・技術開発専門人材の有無（県内外比較）



(出典)三重県「みえ産業振興戦略[2012年7月]」(5,000社アンケート結果から)

### 技術競争力が低下している理由（複数回答）



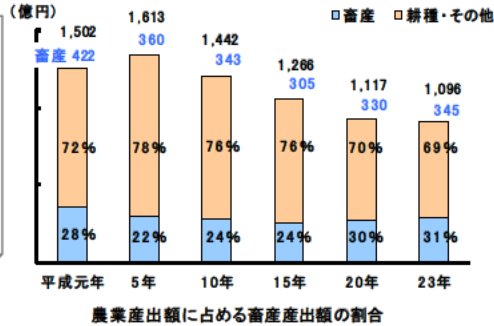
(出典)中小企業庁「中小企業白書 2012年版」

# 項目3

# 畜産業の新たな展開

## 現状

本県の農業産出額は減少傾向にあるが、畜産産出額は、近年安定して推移



畜種	項目	平成元年	平成24年	増減(%)	全国順位
肉用牛	農家戸数	560	220	39	33位
	1戸あたり飼養頭数	51	121	237	5位
酪農	農家戸数	400	64	16	41位
	1戸あたり飼養頭数	36	102	283	2位
養豚	農家戸数	270	61	23	26位
	1戸あたり飼養頭数	652	1,784	274	13位
採卵鶏	農家戸数	300	87	29	9位
	1戸あたり飼養頭数	5,310	59,500	1,121	14位
肉用鶏	農家戸数	61	22	36	27位
	1戸あたり飼養頭数	18,200	35,500	195	-

畜産農家戸数は減少しているが、経営の大規模化、事業化、法人化が進んでいる  
⇒1戸あたりの飼養頭羽数は、全国でも上位

「三重ブランド」への認定などの高付加価値化や、6次産業化の推進のための取組がなされている

例

肉用牛⇒松阪牛は1935年の全国肉用畜産博覧会での優勝を機に、ブランド構築を開始  
経営形態は肥育経営が主流

養豚⇒ブランド化や6次産業化の取組が見られる

採卵鶏⇒個人ブランドや6次産業化の取組が見られる

酪農⇒県内乳業者によるブランド化

肉用鶏⇒銘柄鶏として「熊野地鶏(H24年三重ブランド認定)」、「伊勢赤どり」

## 課題

畜産業を取り巻く課題や潜在的なリスク

畜産物価格の低迷

- ・産地間競争の激化
- ・安価な輸入品の増加 など

飼料価格の高騰

- ・円安で輸入飼料が高騰 など

貿易交渉の進展

- ・TPP など

周辺環境への影響

- ・臭気、ハエ等の発生 など

高齢化・後継者不足

- ・厳しい労働環境
- ・畜産肥育技術等の未継承 など

悪性伝染病の発生

- ・高病原性鳥インフルエンザ など

慢性疾病の蔓延

- ・サルモネラ など

etc.

## 取組の方向性

ブランド力のある畜産物の生産  
(「攻めの畜産」に向けた支援)

安定的な経営の確保

最先端を行く衛生管理体制の確立



「もうかる畜産業」の実現へ

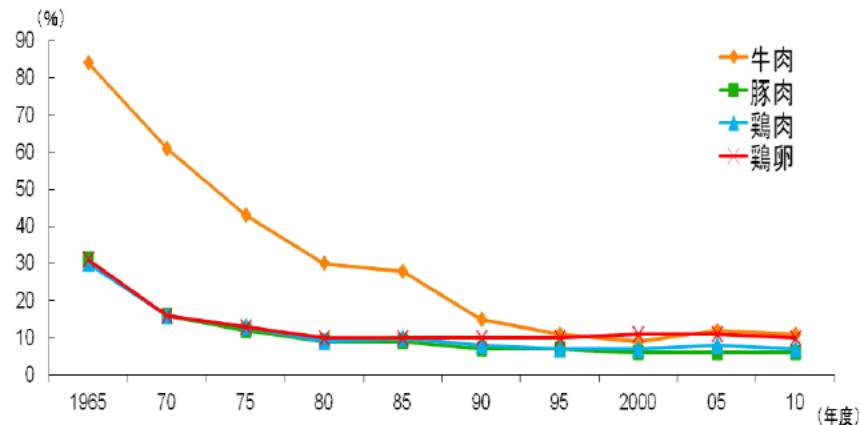


### 全国における三重県の畜産（2011年）

	農業 産出額	畜産	畜産				
			乳用 牛	肉用 牛	豚	鶏	その他
三重 (億円)	1,096	345	58	60	62	164	2
全国 (億円)	82,463	25,509	7,506	4,625	5,359	7,530	489
全国 シェア (%)	1.3	1.3	0.8	1.2	1.1	2.1	0.4
全国 順位	28位	24位	27位	24位	23位	19位	25位

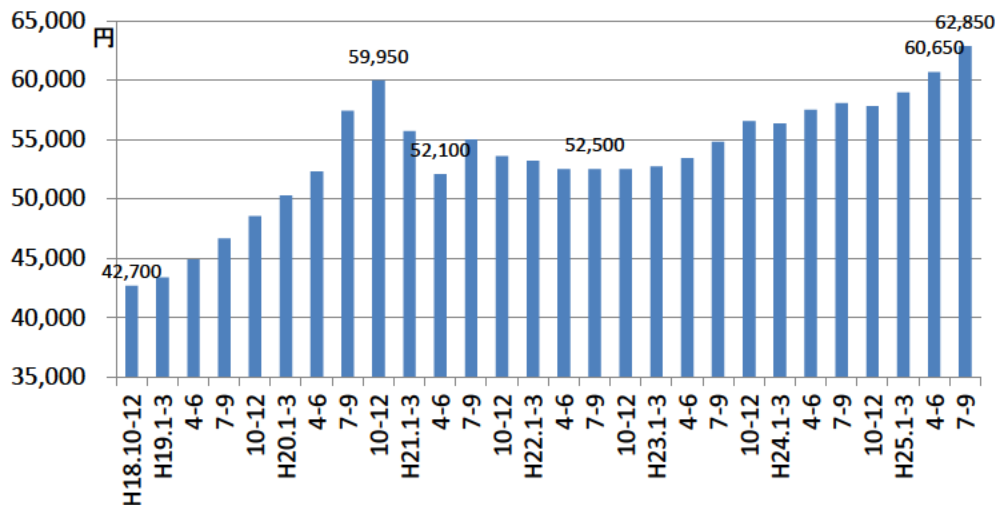
(出典)農林水産省「平成23年農業総産出額(全国)」、「平成23年農業産出額(都道府県別)」

### 畜産物の自給率（カロリーベース）の推移



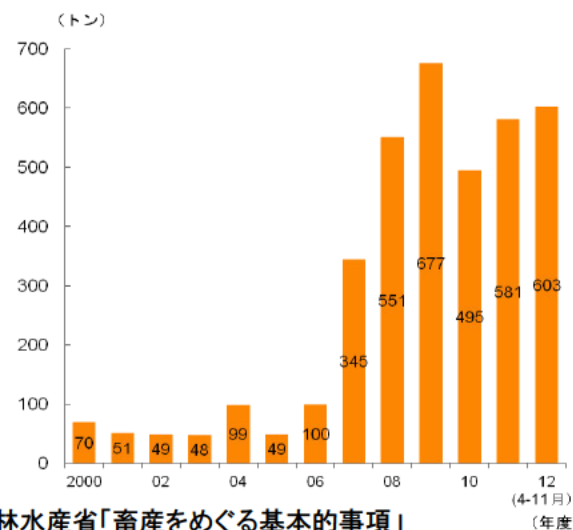
(出典)農林水産省「畜産をめぐる情勢」

### 配合飼料価格の生産者実質負担額の推移



(出展)農林水産省「配合飼料価格安定制度による補填の実施状況」

### 日本産牛肉の輸出実績

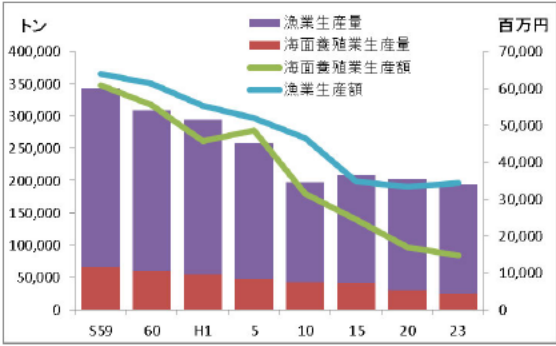


(出典)農林水産省「畜産をめぐる基本的事項」

# 項目4 水産業の新たな展開

## 現状

本県の養殖業は量・額とも減少傾向にあるが、漁業は量・額とも、近年安定して推移



出典 漁業養殖業生産量統計年報

本県の水産業は減少傾向にあるが、漁業生産量、生産額、海面養殖業の経営体数はいずれも全国で上位を占める  
**実は三重の水産物は全国でも上位の生産を誇っているんです！**

**1位** (H23) カツオ  
**2位** 養殖マダイ (4位)  
**3位**

## 課題

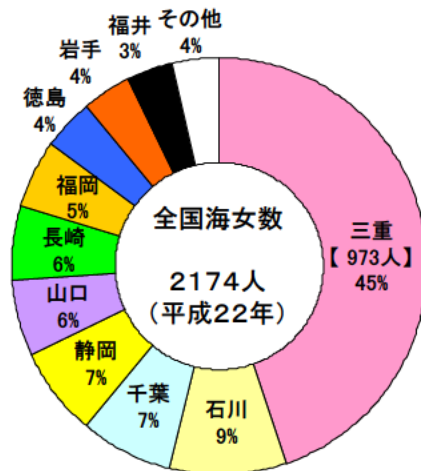
- 漁業・養殖業の担い手の確保と経営力強化
  - 漁業・養殖業における需給のミスマッチ解消
  - 水産資源管理の徹底
  - 三重県産水産物の営業力強化
  - 都市圏向け流通体制の整備
  - 輸出に対応した生産・出荷体制の整備
- etc.*

## 取組の方向性

- 担い手対策協議会の設置
- 漁業・養殖業の計画生産
- 海女の収益を1.5倍に
- 朝獲れ水産物の販売戦略
- 衛生管理型施設の整備検討等、流通拠点の編成
- 輸出ビジネスの成長促進

海女漁業の再興取組

三重県の実績は全国一！



出典：海の博物館(2011)

海女漁業を持続的な漁業として再興

○海女さんと連携したアワビ種苗放流の実施

- ・ヒトデやタコなどの害敵生物の駆除
- ・海女の手による丁寧な種苗放流

○海女の漁獲物の高付加価値化

- ・海女の生産物「海女もん」の商標登録
- ・海藻類等を利用した商品開発とPR支援

海女漁業の収益を1.5倍に！

朝獲れ水産物販売戦略

朝獲れた水産物をその日のうちに中京圏や関西圏へ！



輸出ビジネスの成長促進

国目標：2012年の輸出額1700億円を2020年に3500億円に

県内事業者(139社)を対象に農林水産物等輸出に関する調査を実施(H25年6~7月)

- 65社が農林水産物や県内産品を輸出
- サバや干しナマコなど水産物で6億円の輸出
- 品目別・相手国別の情報提供
- 商談会や展示会への出展等の支援
- 輸出先国のHACCP基準等を満たす施設整備



サバ



干しナマコ

県産水産物の輸出拡大！